

令和4年度 全国学力・学習状況調査 神奈川県立中等教育学校の結果

令和4年4月19日（火）に実施した全国学力・学習状況調査の結果について、県立中等教育学校前期課程3年生の生徒の学習及び生活の概況をお知らせします。

今回の分析結果を踏まえ、今後は、各学校と協働しながら学力向上と教育課程や学習指導の充実・改善を図っていきたいと考えております。

1 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査内容

① 教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・ 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

② 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

- ・ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

(3) 調査結果の公表

県立中等教育学校全体の調査結果を公表する。序列化や過度な競争につながらないようにするため、学校ごとの結果は公表しない。

2 教科に関する調査の分析

【平均正答率】

(単位：%)

	国語	数学	理科
県立中等教育学校	85.9	80.9	73.0
神奈川県（公立）	69	53	50
全 国	69.0	51.4	49.3

(文部科学省から提供されたデータを基に作成)

(1) 国語に関する調査結果

「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「情報の扱い方に関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」の各内容について全国の結果と比較すると、すべての内容において平均正答率が高くなっている。

《他の問題と比べて正答率が低かった問題》

- ◆ 2 三「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」
- ◆ 4 一「行書の特徴を理解する」

《改善に向けて》

- 2 三 について

「書くこと」に関する資質・能力を確実に育成できるよう、考えの根拠を明確にするために、資料から根拠となる箇所を引用して記述する必要があることを理解できるよう指導するとともに、実際に文章を書く活動を多くする等授業の構成を工夫する。

- 4 一 について

書写の学習を通して身に付けた資質・能力を他教科の学習等で活用する場面を設定したり、日常生活の様々な場面で積極的に活用しようとする態度を育成したりする。

(2) 数学に関する調査結果

「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の各領域について全国の結果と比較すると、すべての領域において平均正答率が高くなっている。

《他の問題と比べて正答率が低かった問題》

- ◆ 7 (1) 「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」
- ◆ 7 (2) 「箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる」

《改善に向けて》

- 7 (1) について

調べたことを図やグラフ等に整理する場面を設定し、分布の様子からデータの傾向を読み取れるように指導していく。

- 7 (2) について

データに基づいて不確定な事象を考察する場面を設定し、数学的に表現したことを事象に即して解釈することができるように指導していく。

(3) 理科に関する調査結果

「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」を柱とする各領域について全国の結果と比較すると、すべての領域において平均正答率が高くなっている。

《他の問題と比べて正答率が低かった問題》

- ◆ ③(3)「化学変化に関する知識及び技能と『エネルギー』を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる」
- ◆ ⑤(1)「力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる」

《改善に向けて》

- ③(3)について
身近な化学変化の事象を取り上げ、化学変化に関する知識及び技能と、「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能と関連付けて探究できるような場面を設定する。
- ⑤(1)について
力の働きに関する内容について、他の学習や生活の場面でも活用できるよう概念等を理解させる指導を行う。

3 質問紙に関する調査の分析

《良好であった内容》

- ◇ 「理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した割合の合計は、全国の平均と比べて高かった。
- ◇ 「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の質問に「発表していた」、「どちらかといえば、発表していた」と回答した生徒の割合の合計は、全国の平均と比べて高かった。

《課題があった内容》

- ◆ 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問に対し「当てはまる」と回答した生徒の割合は、全国の平均と比べて低かった。
- ◆ 「国語の勉強は大切だと思いますか」の質問に対し「当てはまる」と回答した生徒の割合は、全国の平均と比べて低かった。

《改善に向けて》

- 国語で育成する資質・能力である「情報と情報との関係」や「情報の整理」が、資料や文章、話の組立てなどにつながる実感ができるような取組や活動を授業で設定する。また、身に付けた資質・能力が将来どのように役に立つのかを生徒がイメージできるように指導していく。